

第10回

バリアフリーダイビング 全国大会 in 沖縄

実 施 報 告 書

2007年6/28日(木)～7/1日(日)

沖縄県宜野湾市

全日空ホテルズラグナガーデン

ありがとう

～ Smile & Smile ～



主催：日本バリアフリーダイビング協会



～内容のご案内～



- | | |
|---------------|-------------------|
| 1. 役員あいさつ | 7. 大会メッセージ |
| 2. 来賓あいさつ | 8. 広報資料 |
| 3. 大会参加レポート | 9. 会計報告 |
| 4. 大会運営役員一覧 | 10. 協会役員名簿 |
| 5. 大会スケジュール | 11. 後援・共催・協賛・協力一覧 |
| 6. 参加状況 | 12. 広告協賛 |
| 全参加者障害別統計 | 13. 表彰の報告 |
| サポートダイバー取得者一覧 | 14. 地区大会報告 |
| 地域別参加者統計 | 15. 次回大会課題/告知 |
| | 16. スナップ写真 |

1. 役員あいさつ

「第10回バリアフリーダイビング全国大会」終了のご報告

皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

「第10回バリアフリーダイビング全国大会」が皆様のおかげをもちまして無事終了する事ができましたことをご報告いたします。

今年は開催の一週間前に梅雨明けとなり、お天道様も第10記念大会を祝うがごとく、すばらしく天候に恵まれた大会でございました。

今大会は、節目となる10回大会ということで、“ありがとう ～ Smile & Smile ～”をテーマとし、第1回大会より全国大会に携わってきました皆様に“ありがとう”の感謝の気持ちを分かち合い、そして共に過ごしてきた喜びに多くの微笑み(Smile & Smile)を分かち合うことができた大会でした。

オリエンテーションは、NPO法人 海底遺跡研究会 理事長の木村政昭先生にロマンあふれる琉球列島の成り立ちについての基調講演をしていただきました。与那国海底遺跡調査の第一人者でいらっしゃいます先生のお話は我々ダイバーの冒険心を掻き立てるものでした。

今回、ボランティア参加者はいつものいい顔の皆様と京都から連続三回の参加となります龍谷大学の皆様、そして昨年に続いて岡山大学大学院教育学研究科 ヒューマンパフォーマンス研究室(三浦研)の皆様が参加され、先生方を始め学生の皆様には、各グループ内での活動は目を見張るものがあり、今年も熱心さとその明るさと力強さで大会を盛り上げ、そして多くの参加者と親交を深めて頂き感謝しております。

また、今大会ボランティア参加者を含め前大会終了時より今大会終了時までサポートダイバーを取得された9名の皆様には全国各地域においてさらなる活躍を期待しております。

交流会は、沖縄の伝統舞踊「かぎやで風(かじゃでふう)」に始まり、沖縄民謡ショーと続き、全国大会初回より交流会にはなくてはならない存在である「伊是名尚門太鼓」のメインメンバーの一人である伊禮俊一君の晴れてCDデビューの報告とミニライブ、そして伊是名尚門太鼓の演舞で盛り上がり、さらにカチャーシーになだれ込み、またさらに最近の2、3大会よりはやり？つつある前の人の両肩に手を置いて行列を作っていく「(まさに行列のできる大会) J B D A みんなの行列」があらこちらで出来始め、会場を這い回り、カチャーシーと入り乱れ、みんな余力を残しつつ終演を惜しみながらの閉会となるのが最近のパターンとなっております。毎回大会に参加する皆様には、パワーを頂いておりますが、交流会では、まさにその原動力が垣間見られ、感謝と共に喜ぶ気持ちで胸があふれる思いです。毎年感動を頂き、誠にありがとうございます。

今年も皆様よりご意見及びアンケートをいただき、感動していただいた事や至らぬ点、要望など、今後に生かして年々すばらしいものにしていきたいと考えます。

そして来年は11回大会でございます。初心に戻り、新たなる出発となりますよう皆様のご意見、ご要望、企画等を元に協会一丸となって準備を進めてまいりますので、ご協力のほどよろしくお願い致します。

最後に第1回大会より今大会開催にあたりご協力、ご後援いただきました皆様方に、この場をお借りいたしまして深く感謝申し上げ、「第10回バリアフリーダイビング全国大会」のご報告と致します。

日本バリアフリーダイビング協会 会長 山田 眞佐喜

2. 来賓あいさつ

ごあいさつ

第10回日本バリアフリーダイビング全国大会の開催を心からお喜び申し上げます。

障害者と健常者がマリンスポーツを通じて触れ合い、お互いが心と心を通い合わせ、感動を分かち合うことによってノーマライゼーションの推進を図るという本大会も今年で10回目を迎え、広く定着しているものと思います。

本県においては第3次障害者基本計画「美らしま障害者プラン」に基づき、ノーマライゼーションの理念を実現する社会の形成を目指し、各種施策を推進しております。

また、この3月には、障害者自立支援法に基づく「沖縄県障害福祉計画」を策定し、「障害のある人が普通に暮らせる地域づくり」「地域に住む人が障害の有無に関わらず自然に交わり、支え合う地域づくり」「ユニバーサル・サービスの実現」の基本理念のもと、障害福祉サービスや地域生活支援の基盤を整えるための方策について定め、取り組んでいるところであります。

このような中、本大会が「ありがとう！ ～ Smile&Smile ～」をテーマに、今年も沖縄で開催されますことは、障害のある方もない方もともに支え合う社会の構築を目指している本県にとって、大変意義深いことであります。

本大会に御参加の皆様には、沖縄の素晴らしい海を始めとした豊かな自然や多彩な文化に触れ、本県に対する御理解を一層深めていただければ幸いです。

終わりに、本大会の開催に御尽力いただきました日本バリアフリーダイビング協会を始め、関係者並びにボランティアの皆様へ深く感謝申し上げますとともに、皆様のますますの御健勝と御活躍を祈念しまして、あいさつといたします。

沖縄県知事 仲井眞 弘多

ごあいさつ

「第10回バリアフリーダイビング全国大会」の開催を心よりお喜び申し上げます。

本大会は、障害者と健常者がマリンスポーツを通して触れ合い、相互交流を図ることによりお互いの理解を深める目的で開催されると伺っております。

ノーマライゼーションの理念のもと、障害の種別にかかわらず障害者自身が必要とするサービスを自ら選択し、利用できるような仕組作りを定めた障害者自立支援法が制定されました。

本市においては「チュイシージーの心で創る福祉社会」を理念とした第二次宜野湾市障害者福祉計画を策定し、障害を持つ人も持たない人も住み慣れた地域で暮らせるよう障害者福祉施策に取り組んでいるところであります。

このような中「ありがとう！ ～ Smile & Smile ～」をテーマに本大会が宜野湾市のコンベンションエリアで開催されますことは、出会いと交流を大切に、観光・コンベンション機能の充実を目指している本市にとりまして、大変喜ばしいことであります。

どうかゲスト参加の皆様やボランティア参加の皆様には、滞在期間中、美しい沖縄の自然や独特の文化を十分に御堪能していただきたいと思います。

終わりに、本大会の開催にご尽力いただきました日本バリアフリーダイビング協会をはじめ、関係者並びにボランティアの皆様へ深く感謝申し上げますとともに、皆様方の今後益々の御健勝、御活躍を心から祈念いたしまして、御挨拶といたします。

宜野湾市長 伊波 洋一

3. 大会参加レポート

第10回バリアフリーダイビング全国大会報告

谷侑子、片山敬子、三浦孝仁

岡山大学 大学院教育学研究科 ヒューマン・パフォーマンス研究室

私たちは、第9回大会と記念すべき第10回大会に参加し、貴重な体験と情報を得ることができた。詳細は、冊子にしてJBDA本部に提出したが、ここでは概要について報告する。

第10回大会の参加者は、ゲスト49名、ボランティア75名であった。ゲスト49人についての世代別男女数は、男性が23歳から65歳までの26人、女性は17歳から79歳までの23人が参加し、男性がわずかに多くみられた。年代別にみると50歳代が最も多く全体の24%を占めた。次いで20歳代が20%、30歳代が18%であった。出身は、近畿地方が最も多く、29%であった。次いで関東地方が27%、中国地方が18%であった。ゲストの障害分類では、肢体障害が最も多く74%、次に視覚障害が12%、健常者が8%であった。

大会期間中は、ゲストとボランティアの融和を図り、より安全にそしてコミュニケーションを取りやすい環境をつくることを目的として、全参加者を大きく10チームに分けて、チームリーダーを中心にグループごとに活動が行われた。

1日目は、会場に到着後、ボランティアとゲストそれぞれに説明会が行われ、ボランティア対象の説明会では各障害についての一般的な説明や、車イスの補助の仕方など、介助する上での注意点の講習が行われた。ゲスト対象の説明会では、メディカルチェックの説明が行われた。その後、あらかじめ分けられたチーム毎に、ボランティアとチームリーダーとのミーティングが行われた。そこではダイビング当日の段取りや注意点など、チームリーダーを中心にチームの人数や状況に合わせて綿密な打ち合わせが行われた。

2日目、3日目がダイビング実施日となり、参加者は目的に応じて2つのコース、すなわち、Cカードを取得していない人のための体験ダイビングコースと、Cカードを取得している人のためのファン(FUN)ダイビングコースとに分けられた。体験ダイビングのコースではJBDA作成のスキルチェックシートに基づいて、プールで耳抜きやマスククリアなどの技能講習が行われ、その後海洋にてインストラクターやボランティア・サポーターのもと、海中の世界を体験することとなった。一方、ファンダイビングのコースでは技能講習は行われず、バディ・システムにより楽しみながらダイビングを行っていた。

大会では、ダイビングを一緒に行うだけでなく、交流の場が設けられていた。交流会では、チーム毎に同じテーブルを囲み、自己紹介やダイビング経験について語り合うことで、参加者同士の親睦が図ることができた。特に同じチームの参加者とは、活動を通して共に過ごす時間が多かったため親交を深めることができた。第10回大会に参加した際は、第9回大会で同じチームだった参加者と1年ぶりの再会であったが、気軽に話すことができ、ダイビングを通して新しい人間関係がつけられたと感じることが出来た。

また、大会中はゲストに対して毎朝、専門医師による血圧測定・問診などのメディカルチェックが行われており、医師の診察及び判断で当日ダイビングへの参加が決定された。

ボランティアも大会毎に多数参加しており、陸上ボランティアからCカードを取得しているダイバー、サポートダイバーまで様々であった。ダイビング終了後は、お互いに協力して器材を洗浄したり、潜水記録をつけたりした。

JBDAでは、様々な身体的特徴がある障害者の個々の能力を把握し、技術の認定をさらに細分化することにより、どの程度の介助をすべきか結論付け、結果として初級のレベルを4段階に区分けしており、第10回大会では2名が初級認定を受けている。

第10回大会ではダイビング当日の朝のメディカルチェックにおいて、ゲストの血圧測定に加え、肺機能測定を行った。肺機能測定の対象者42人の年齢分布は、10歳代1人、20歳代10人、30歳代8人、40歳代6人、50歳代9人、60歳代5人、70歳代3人であった。今回の肺機能測定では、FVC、FEV1.0、FEV1%、MMF、PEFの5項目の測定を行った。中でも、FVCと1秒率を採用し、年齢や身長、性別から予測される予測値(%)から出される評価を参考に参加者の傾向を見ることとした。正常と評価された人は14人、%FVCが80%未満の人は25人、1秒率が70%未満の人は7人であった。このうち拘束性換気障害と評価されたのは21人、閉塞性換気障害は3人、混合性換気障害は4人であった。大会では全員ダイビングを行うことができていた。よって、肺機能が正常値に満たない場合でも、日常生活で呼吸に支障がなければダイビングができると推察される。

血圧測定はJBDA専属の医師によって行われた。ゲスト参加者49人のうち、13人に高血圧の傾向が見られ、このうち、2日間とも高血圧値を示したのは7人であった。このうち2日目のダイビングが不可能であったのは、高血圧の1名と体調不良の2名であった。

以上のことから、JBDA主催で行われるバリアフリーダイビング全国大会には全国各地から幅広い年齢層、様々な種類の障害がある人々が同時に参加していたことがあきらかになった。また、障害者も健常者も安全に楽しくダイビングを行うためには、定期的な健康診断を受け、専門の医師に相談できる体制を整える必要があると分かった。また、何よりもダイビングを通して新しい人間関係がつけられたと感じることが出来た。

最後に、この大会で調査に協力していただいた皆様に心から感謝の意を表するとともに、この大会が末永く継続し多くの人々にダイビングのすばらしさと参加者同士の親睦が図られることを祈ってやまない。

4. 大会運営役員一覧

■ 役 員 ■

運営委員長

事務局

総務

記録

会場設営・進行

送迎・運搬

受付・備品管理

医療・全般・救急・救護

宴会・食事・会計

ビデオ撮影

マスコミ対応

安全管理対策委員

海洋実施・器材管理

船管理

会 長

山 田 眞 佐 喜

屋 良 洋 子

吉 田 章

小 野 明 美

佐 久 間 真 一

宮 里 一 男

高 尾 清 博

伊 藤 工 伊

山 田 敦 子

竹 内 嘉 一 郎

名 嘉 藤 勝 之

後 藤 雅 人

新 井 幸 村

山 田

専務理事

沖縄支局長

顧問

末 吉 り え

真栄田 篤 彦

市 村 豊

岡 崎 未 来

■ 指導員 ■

☆障害の特徴と対応

伊良波 知 子

☆トランスファー及びリフティング指導
上級障害者スポーツ指導員

宮 里 一 男

☆J B D A指導員

新 井 雅 人

錦 織 秀 治

森 江 泰 憲

入 城 俊 彦

金 屋 良 将 憲

屋 良 子

加 藤 喜 久

西 谷 雅 治

坂 本 利 明

近 江 寛 村

山 田 幸

☆インストラクター

金 野 成 局

小 伊 明 美

伊 関 亜 里

小 夫 家 新

徳 田 康 友

開 発 未 央

佐 武 方 美 子

今 田 川 あ づ

小 林 達 也

津 波 古 宏 至

柳 田 耕 健 治

☆ボートキャプテン

LOOK Ⅲ世

マリポイント

パイレーツ

ヨセミヤ

奈津丸

美 好 Ⅲ

B J

ま さ 丸

新 垣 盛 春

洲 鎌 保 紀

中 西 学 亮

前 田 善 紀

前 田 一 好

下 吹 越 海

林 雅 奈

ヒガシカミネ

5. 大会スケジュール

	6月28日(木)	6月29日(金)	6月30日(土)	7月1日(日)
6:00		ボランティア・スタッフ 会場入り・準備	ボランティア・スタッフ 会場入り・準備	
7:00		○朝食 食事前後順次 メディカルチェック	○朝食 食事前後順次 メディカルチェック	○朝食
8:00	ゲスト参加者 ボランティア参加者 各空港に集合後			※延泊者 オプション ダイビング
9:00		Aコース 8:30～	8:30～ A海洋 3	
10:00			9:00～	
11:00	地元ボランティア 送迎準備	海洋 1		帰路準備
12:00	11:00～ 全参加者 空港到着 会場まで	昼食 (船上)	昼 食	チェックアウト 空港へ移動
13:00				
14:00	14:00～ リーダー説明会	海洋 2	13:30～ オプション ① ② ③	13:00前後 各空港へ向け 出発
15:00	15:00～ 各参加者説明会		14:30～ 1スター サポート ダイバー	
16:00				
17:00	17:00～ 開会式 オリエンテーション	★チームミーティング (時間未定)		各空港へ到着
18:00				
19:00		18:30～ 夕 食	19:00～ 記念撮影 閉会式	スタッフ 反省会
20:00				
21:00				
22:00	☆リーダーミーティング	☆リーダーミーティング	☆リーダーミーティング	

6. 参加状況

全参加者障害別統計

障害区分	年代別	性 別	ゲスト	ボ ラ	スタッフ	学 生	備 考
視覚障害	3 0 代	男性	2				網膜色素変性症 視神経障害
		女性	1				
	4 0 代	男性	1				
		女性	1				
	5 0 代	男性					
		女性	2				
	6 0 代	男性	1				
		女性					
聴覚障害	2 0 代	男性	1		1		感音性難聴
		女性			1		
	3 0 代	男性		1			
		女性		1			
肢体障害	1 0 代	男性					四肢体感機能障害 先天性多発性関節拘縮症 左股関節機能障害 脳原性運動障害 頸椎損傷 両下肢右上肢機能障害 体幹機能障害 股関節脱臼 高次脳機能障害 脳性マヒ 右下肢弛緩性麻痺 脊髄損傷 椎間板ヘルニア 両下肢機能障害 変形性関節症による両股関節機能障害
		女性	1				
	2 0 代	男性	4				
		女性	2				
	3 0 代	男性	7				
		女性	4				
	4 0 代	男性	2				
		女性	3	1			
	5 0 代	男性	6				
		女性	2				
	6 0 代	男性	1				
		女性	3	1			
内部障害	7 0 代	女性	1				心臓・言語機能障害
健 常 者	1 0 代	男性				7	
		女性		1		2	
	2 0 代	男性		3	3		
		女性		1 0			
	3 0 代	男性			1 2		
		女性		1 7	2		
	4 0 代	男性		1 4	1 4		
		女性		9	5		
	5 0 代	男性		7	8		
		女性	2		3		
	6 0 代	男性	1		1		
		女性	1				

2006年7月～2007年7月までに新たにサポートダイバーを取得された皆さん

名 前	取得年月日	実習地	名 前	取得年月日	実習地
清水 慶 子	06.10/02	関東	福田 和 子	07.06/28	沖縄
山元 康 裕	07.05/11	関東	安里 昌 憲	07.06/28	沖縄
山元 裕美子	07.05/11	関東	松尾 志津子	07.07/21	沖縄
中島 勝 弥	07.05/11	関東			
古屋 隆 久	07.05/11	関東			
堀江 守	07.05/11	関東			

地域別参加者統計



地域別	都道府県	ゲスト	ボランティア	学生ボラ	スタッフ	合 計
東 北	宮城		1			1
甲信越	新潟・長野		1		3	4
関 東	茨城・栃木・埼玉・千葉・ 東京・神奈川・山梨・静岡	13	27		8	48
東 海	愛知・三重・岐阜	4	3		3	10
近 畿	京都・奈良・大阪・兵庫	15	10	9	2	36
中 国	岡山・広島・島根・山口	8	11		1	20
四 国	香川・高知	2				2
九 州	福岡	6	4			10
沖 縄	本島・離島	1	8		33	42
合 計		49	65	9	50	173

7. 大会メッセージ

◎ ゲストの皆様から頂いたメッセージ

★ゲストさんへのご意見

- ・楽しかったです。
- ・最高でした。
- ・新しい仲間がまたも増えた喜びで一杯です。
- ・いつもの歌に会えるのも楽しみなものですね。
- ・再会を楽しみにしています。新しい参加の方も楽しんでもらえたかなと思っています。
又来年の再会を楽しみに！
- ・よくしていただきありがとうございました。

★ボランティアさんへのメッセージ

- ・とっても楽しくいろんな事ができました。
- ・私のパートナーは看護婦さんでした。職業とは云えとても心づかいの出来る人でした。
大変お世話になり感謝しています。
- ・付いたボランティアさんがとても親切な方で、とても楽しくできました。
- ・無事に終了して当たり前でもボランティアさんの献身があるからこそいつも思います。
- ・私に付いてくださったボランティアさんはもちろん、他の人のボランティアさんを見ても熱心に接していらっしゃるのを見て、逆の立場だったら自分に出来るだろうかと思いました。
本当にありがとうございました。
- ・8回目に初めて参加して以来、目からウロコと思う程一生懸命なボランティアさんやスタッフの心に触れていつも感動です！今年は船でお腹の調子が悪くなり、担当のボランティアさん始め、周囲のボランティアさんも協力して下さり、無事クリアーすることができ、本当にありがとうございました。さすがバリアフリーダイビングですね。
- ・手引きをしている時に手引きしてくれている手で知人を見つけ手を振らないで下さい。
- ・ボディを組んでもらっているのに、知人を見つけるたびに声を掛け、立ち止まり、喋り込むのはやめて下さい。

★ホテルへのご意見

- ・全ての食事時、準備が遅すぎる。
- ・館内はもう少し涼しくて良いのでは。扇子を使っている人を多く見かけました。
- ・若い人達が多いですが、応対も好感が持てます。部屋も快適でした。
- ・連続3回参加の中で一番良かったと思います。特に大浴場があったので、室内の洗面バスルームが車椅子で利用できなかったのが、シャワーを大浴場で使うことができて良かった。大浴場なので他のグループのお手伝いも共有できたと思います。
- ・今回は2度目の利用でしたが、初めてプールや大浴場を使用して、心地良く過ごすことが出来ました。お料理も和・洋・中それぞれ美味しかったです。

★事務局へのご意見

- ・大会準備、大会当日、また後片付けと大変なことだと想像します。後日疲れが出ません様に。
- ・ギリギリのスケジュール、特にダイビング中の食事時間のルーズさ無計画さには、いつものことですが加齢に伴い身体に応えます。諸条件もあり大変と思いますが15:00過ぎの食事は食べることも出来ませんでした。
- ・朝食7:00～、メディカルチェック7:30、フロント集合8:05、コンディション調整が大変でした。
- ・10回大会の開会式は簡潔で好感が持てました。記念講演、もっと深く知りたいと思いました。
- ・準備から大会中又終わる迄、そのご苦労は想像以上のことと只々感謝です。今年も無事に楽しく交流することができてありがとうございました。なかなか他で体験することができない素晴らしい企画、これから是非続けて欲しいですね。
- ・初めて参加させてもらいましたが、初参加の人には初日からバディの人を付けてあげる方がよいと思います。バディがその日の夜中合流では、結局一人ぼっちで知らない人に手引きされ部屋では独り不安が募りました。
- ・ボランティアさん(1人はバディの人、もう1人は他のボランティアの人)が2人、部屋に同室でしたが、ボランティアさん2人で話し込んでおられ、全くゲストの私は蚊帳の外でした。せっかくダイビングは楽しく、チームの人にも良くしてもらったのですが、部屋では・・・全くゲストを無視したボランティアの対話・・・イヤでした。
- ・最終日夜遅くボランティアさんは部屋を出て行かれ、部屋に一人とり残されました。時計を落としましたが、見えずわかりませんでした。楽しかった印象が、最終日の夜独り時計を捜しまわりました。とても残念です。
- ・大会期間中(準備中から)大変なご苦労だったと思います。おかげ様で楽しい体験をさせて頂きました。

◎ ボランティアの皆様から頂いたメッセージ

★ゲストさんへのご意見

- ・初参加ではないですが、初体験がたくさんありました。ゲストさん以上に不安はありましたが、楽しく過ごすことが出来ました。ありがとうございます。
- ・そのあふれる笑顔とパワーあふれる生き様に沢山チカラをもらいました。ありがとうございました。
- ・好奇心旺盛なゲストさんたち、サイコーです！
- ・2日間(合計4日間)ありがとうございました。みなさん楽しんでいただけましたか？
- ・通常の生活の一日の中で介助が必要な場面を書いてもらうと良いのでは？
(例)朝…着替え、歯磨き、夜…入浴時、夜中…排尿、等
- ・さまざまな方が、このような大会にこんなに多数参加されているのにおどろきました。それぞれかかえる背景は異なると思いますが、同じ場を共有し楽しめてよかったです。

★ボランティアさんへのメッセージ

- ・皆さんの協力があったのボランティア活動が出来ることにあらためて気づきました。
- ・個性あふれる人が集まって楽しかったです。またこの大会で会いたいです。仲間をもっと増やしましょう。
- ・たくさんの気配りをありがとうございました。手話ができる人が思ったよりも多くて、びっくりしましたが、楽しかったです。
- ・皆様お疲れ様でした。
- ・自分は趣味のダイビングもできて楽しかったのですが、陸のボラさんも同じ参加費で、暑い中活動されているのはなかなか大変だろうなと思いました。

★ホテルへのご意見

- ・こちらの勝手ではありますが、時間に余裕がないとき等の対応がいまひとつゆっくりしているので、気持ちに余裕がなくなってきました。
- ・おいしいごはん、おもてなしをありがとうございました。よく眠れ、よく遊び、よく学べたと思います。お世話様でした。
- ・とてもきれいなホテルで、満足してます。ベッドも気持ちよかったです。
- ・細やかな心配りが大変ありがたかったです。このようなホテルはまた利用したくなりました。（滞在中どのスタッフのいやな顔を一回も見ませんでした。）
- ・冷房の効きが悪く暑いところが多かった。
- ・屋外プールに木陰がもっと欲しいです。
- ・正面入口に喫煙所は良くない。喫煙所は一般の人がどうしても通らなくてはいけない所以外に設定してください。
- ・車椅子で入れる手すり付トイレは2Fのみで、不便でした。各部屋でも手すりだけあれば使えるのにないために夜も2Fに出るようでした。1日目は夜電気も消えていて、使うという認識されていなかったみたいですね。部屋割も車椅子使用者を広い部屋に割り振ってもらえると良かったです(車椅子不要の方が広い部屋を使っていました)。

★事務局へのご意見

- ・素晴らしいスタッフと企画をありがとうございます。これからもどんどん大会を盛り上げていって欲しいと思います。お疲れ様でした。
- ・毎年のバリアフリーダイビング大会運営お疲れ様です。来年の開催を楽しみにしております。またよろしくお願いします。
- ・準備から開催まで1年間ご苦労様でした。
- ・大変ご苦労だったと思います。ありがとうございました。今回ホテル周辺は何もなかったのも、29日の夕食も最初から決めておいてもよかったと思います。
- ・大会の準備はすごく大変だろうなあ・・・とスタッフの方が夜中まで連絡をとりあっているのをみて思いました。企画していただける方がいることでこのような大会も経験でき、とても勉強になりました。ありがとうございました。

8. 広報資料

2007年6月29日(金) 琉球新報

バリアフリー全国大会

ボランティアの補助を受けながら水に深く講習会の参加者ら29日午前9時すぎ、宜野湾市のラグナガーデンホテル



ダイビング講習 障害者らに笑顔

第10回バリアフリーダイビング全国大会(日本バリアフリーダイビング協会主催)が28-30日の日程で県内で開かれている。29日は宜野湾市のラグナガーデンホテルと海でダイビング講習を開き、障害者ら50人とボランティア約75人が参加した。

29日は午前8時半から、ダイビング初心者と経験者の2コースに分かれ講習。空気ボンベなどを装着したダイビング初心者の障害者が、ボランティアの補助を受けながらプールで潜る練習をした。

大会参加3回目の小林明彦さん(42)＝奈良県＝は「久しぶりに潜るので感覚を忘れていたと思ったが、そうでもなかった。海で潜るのが楽しみ」と笑顔を見せた。

大会は障害者や高齢者と健常者がマリンスポーツを通して触れ合うことで、心のバリアを取り除くことや、障害者が自然の中でスポーツすることの楽しさ、喜びを体感することが狙い。地方大会も開かれており、今年は全国3カ所で開催。全国大会は毎年沖縄で開催されている。

2007年6月29日(金) 夕刊「社会面」掲載

 琉球新報社

○その他のメディア

ピーターパンこども基金
(財) 日本児童家庭文化協会

K i d s F i r s t (2 0 0 7 夏 vol.31 11頁記載)

障がい者のリハビリテーションとノーマライゼーションに大きく貢献 日本バリアフリーダイビング協会 (JBDA)

ハンディキャップを持った人たちに、ダイビングの楽しさを知ってほしい——
そんな熱い思いが込められて、日本バリアフリーダイビング協会は設立されました。
障がい者のダイビング普及、社会参加の促進に取り組んでいます。

毎年夏に「バリアフリーダイビング全国大会」を沖縄県で開催し、障がい者と健常者が触れ合いながら、ダイビングを体験できる機会を提供しています。大会への参加を通じて、海という自然のなかで、スポーツすることの楽しさ、喜び、感動を味わうことができ、毎年数多くの参加者から好評を得ています。

■ダイビングの効果

障がいを持っていても、適切なケアがあれば、海を楽しむことができます。ダイビングをしていると大自然の偉大さを体感できます。太陽の暑さ、海水の冷たさによる温度差の刺激、圧力差による適度な刺激、ダイビング終了後の爽快感——。ダイビングは肉体的にも精神的にも大きな刺激となり、心身の健康に大いに役立つといわれています。

〈リハビリテーション効果〉

重力からの解放により運動が楽になり、結果として陸上では動かさなかった部分が徐々に動くようになるケースも認められています。水圧の関係から、陸上での運動よりも、より全身に効果的な運動をしたことになり、新陳代謝も活発になります。

〈ノーマライゼーション効果〉

ダイビングにはバディ(相棒)と共に行動するルールがあります。ダイバーは参加した人たちを仲間として受け入れ、コミュニケーションや情報交換ができ、障がいをもつ方々の社会的見地をさらに広げます。



仲間たちと共に
美しい沖縄の海を満喫

■第10回バリアフリーダイビング全国大会

今年は下記の日程で開催されます。全国各地から肢体・視覚・聴覚等に障がいを持つ方々、指導員、ボランティアらが一同に介し、ダイビングを楽しみます。

財団法人日本児童家庭文化協会では今大会を後援しています。その模様は次号にて紹介する予定です。

【日 程】 2007年6月28日～7月1日
【テーマ】 あろがとう！～ smile & smile ～
【主 催】 日本バリアフリーダイビング協会、財団法人日本障害者スポーツ協会、「障害者スポーツ競技団体」会連
【主催者】 全日本水テニス ラグナガーデン (沖縄県宜野湾市)
【大会場】 (ゲスト参加コース)
・Aコース＝ファンダイビング＋オプション
(潜水カード所持者が知識とテクニックを磨いてダイビングを楽しむコース)
・Bコース＝体験ダイビング＋オプション
(初心者ダイビングの基礎知識を身につけて楽しむコース)
(ボランティア参加コース)



大会参加者の皆さん

日本バリアフリーダイビング協会 (略称: JBDA)
本部事務局: 沖縄県那覇市久米1-5-18 稲福ビル1F
☎ 098-869-4957 <http://www.e-jbda.com>

障害があるからこそスポーツを(3)

バリアフリーダイビング

今回の事例は「スキューバダイビング」をとりあげたい。

なぜ、ダイビングなのか。

障害があってもできるスポーツにはいろいろなものがあるが、その中でダイビングは、小中学生から高齢者まで年齢の幅が広く、様々な障害に対応できる種目である。また行う場が、他のスポーツが屋内やグラウンドなどに留まるのに対し、最低プールから、メインは海しかも海中であり、障害者に特別な場所ではなく、一般の人と同じ所である。必ず「パディ」というペアを組み、他にガイドや同じグループになる人と一緒に潜る。前後の準備や出入りの場面では自然にみんなが助け合う。競技スポーツではなく、最低限のルールを守れば、潜る深さや時間や水中での活動はその人に合わせられる。

*

Kさん、64歳は、スナックマスターをしていた51歳の夏、バスにはねられ脳挫傷を負った。記憶障害を伴う左片麻痺となったが、けがから2年で屋内杖、装具歩行が可能となり、受傷前10年間のダイビング歴が再び彼を海へ誘った。プールでの2年間の運動のあと沖縄の海へ入った。以来毎年1回のダイビングだが、その年1回を楽しみに機能を維持している。

Iちゃんは今女子高生、脊髄性筋萎縮症で車いす、やや呼吸筋も弱い。中学の頃からお母さんの後押しでダイビングを始めた。3年目にはライセンスもとった。病院の外來でのリハも続けられているが、痛がったり疲労感を訴えたりする。しかしダイビングでは生き生きとし、ダイビング後には歩行能力が改善するという。

Yさん、去年ついに80歳を超えた。脳梗塞で軽い歩行障害、構音障害、難聴に心機能障害もあるという。毎回主治医から心配されつつも、ダイビングで何かあってもいいと、すでに10年以上潜り続けている。ダイビングを2〜3日やるとしっかり歩けるようになるので、元気になるためにダイビングに来ているという。

I君は沖縄に住む30歳脳性麻痺、アテトーゼ型で移動は電動車いす、構音障害のためコミュニケーションは最低限必要なことを何とか伝えられるくらい、食事をゆっくりとフォークとストローでとれる以外は介助を要する。毎年バリアフリーダイビングの大会に一人で参加し、ボランティアの24時間介助で4日間過ごす。もちろん全介助だがちゃんと潜って海中を楽しんでいる。楽しそうな笑顔、うれしそうな表情が介助の苦勞を吹き飛ばし、反対に喜びに変えてくれる。

Hさんは事故で失明した。以前やり

かけたダイビングの続きを始めた。見えないのになぜ潜るのか、素朴な疑問に、あの浮遊感がたまらなく、落下や衝突の恐怖からの解放、海の中の音がいいのだと教えてくれた。

その他にも、脳卒中片麻痺、ポリオ、頸損四肢麻痺、脊損対麻痺、関節障害など様々な人が行っている。聴覚障害の人たちは水中でも手話で話すことができる。

*

毎年総勢200人規模で行われるバリアフリーダイビング全国大会は、健常者もどんな障害の方も一緒に潜ろうというコンセプトで、毎年6月梅雨の明けた沖縄で行われ、すでに10回を数えている。障害のある方にダイビングを提供してくれる所は複数あるが、この大会を主催する日本バリアフリーダイビング協会(<http://www.e-jbda.com/>)が最大手だろう。

ダイビングには、海水の効用、自然との触れ合い、旅行の要素などメリットがたくさんある。確かにリスクもあり、我々リハ医には安全性への配慮にも尽力すべき使命があるが、それは健常者も同じ条件であり、参加者みんなが助け合うノーマライゼーションが実現していることの意義は大きい。

○・○・○

障害保健福祉委員会
伊佐地 隆、古澤一成

○浦添社会福祉協議会発行 うらそえ社共だより

うらそえ社共だより (2007年8月1日版)

ありがとう! ~ smile & smile ~

楽しい♪ダイビング体験

今年もあつ〜い夏がやって来ました! 日本バリアフリーダイビング協会では毎年、この季節にバリアフリーダイビング全国大会を開催しています。

今年で10回目となるこの大会は6月28日から7月1日の4日間で行われ、ゲスト、ボランティア総参加者約100人が集まり、楽しいひとときを過ごしました。

今回、ボランティアスタッフとして協力していただきました、港川在住の小椋さんにコメントをいただきました!



このバリアフリーダイビング大会は障がい者と健常者がレジャースポーツや沖縄の文化を通じて触れ合うことにより、心身のリハビリテーション・ノーマライゼーションに寄与することを目的に開催されています。私は、車いす利用者の送迎を担当し、参加者からはたくさんの喜びの顔、声をいただきました。

港川在住・小椋

※なお、浦添社会福祉協議会は日本バリアフリーダイビング協会の設立から大会運営すべてにおいて協力しております。

 YANMAR 沖縄ビル管理 共同企業体	宜野湾港マリーナ広報誌 Marina	宜野湾港マリーナ管理事務所 〒901-2224 宜野湾市真志喜 4-4-1 第4号 TEL (098) 897-7017 FAX (098) 897-4020 E-mail g.marina@cap.ocn.ne.jp
--	-------------------------------------	---

盛夏・マリーナ小特集

07年4～8月 イベント等実施報告

暑中お見舞い申し上げます。今年の夏は例年になく暑すぎるような気がしますが、いかがお過ごしでしょうか。さて、本紙3号(4月10日)の発行から約5ヶ月が経過しましたが、この間マリーナでも色々なことがありました。そこで、今号はこの間のマリーナのできごとなどについてご報告を特集します。

ホクレア号沖縄寄港

前号でお知らせしましたハワイの古式帆船(航海カヌー)ホクレア号が4月24日沖縄へやってきました。これはハワイ州観光局が主催して実施したのですが、ヤンマー(株)も一部スポンサーとして協賛していたことから沖縄寄港のさいは宜野湾港マリーナにも立ち寄っていただく予定でした。

しかし、日程がずれたことや当日29日は強風であったことなどから宜野湾港マリーナには入港できませんでした。ただし、せっかくの機会ですから、せめて歓迎セレモニーくらいはしましょうということになり、マリーナ沖を通過したときヨット(エクサルーザ)にヤンマー沖縄(株)の関係者が乗り込み海上で花束と記念品の贈呈をおこないました。



ホクレア号糸満漁港入港時セレモニーの様様

第10回全国バリアフリーダイビング大会 in 沖縄

6月28日～30日の3日間、全国から障害のある皆さんが集まりバリアフリーダイビング大会が宜野湾港マリーナを拠点に行われました。主催は同実行委員会、主管・日本バリアフリーダイビング協会が実施。多数のダイビング愛好家にぎわいました。同協会事務局では「宜野湾マリーナはポンツーンがあるのでとても便利です。来年もぜひここでやりたいと思います」と語っていました。

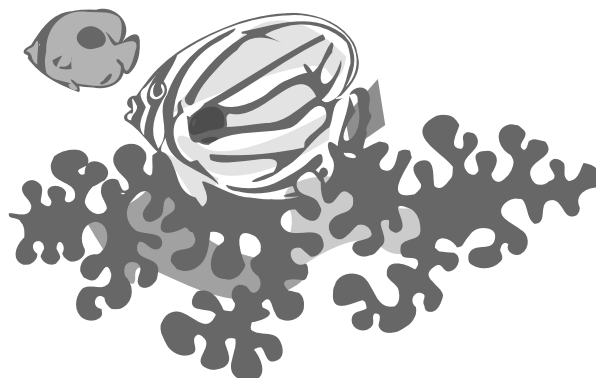


9. 会計報告

第10回バリアフリーダイビング全国大会収支報告

(2007年6月28日～7月1日)

	科 目	金 額
I	収支の部	
1	参加費・交流会費	2,200,000
2	広告協賛金・協賛金	1,895,000
3	旅費・宿泊費	9,876,840
4	海洋実習費	2,079,000
5	協会負担金	272,291
	収入合計 (A)	16,323,131
II	支出の部	
1	運営費	15,818,131
2	事業費	254,000
3	印刷費	126,000
4	保険料	125,000
	支出合計 (B)	16,323,131
	収支合計 (A) - (B)	0



10. 協会役員名簿

会長
専務理事
理事
沖縄支局長
監事
協議会会長
(関東)

山宮森本武寺名波
田里井武藤西嘉平
眞一久潤真一郎
佐男雄幸潤真郎
喜雄幸潤真郎
佐男雄幸潤真郎

新井雅人

(中部)
(中国)
(九州)
(北陸)
東京事務局

加藤錦山近黒
藤織中江澤
喜秀博寛
久治博寛
伴次

名誉顧問
顧問

藤後下儀松富上運古伊眞榮鳴本小伊良青飯瀬中円永服伊佐金大仁吉伊志三
尾藤地部島田天野藤田海間濱波木島田谷山光部地山田嶺浦
幸勝幹和歌子トモ也昭健彦明彦恵也哲子雄讓博男信典二隆一厚章恒孝
司之郎歌子子也昭健彦明彦恵也哲子雄讓博男信典二隆一厚章恒孝

上級障害者スポーツ指導員
有限会社エムオーテック 代表
中央動物病院 院長
サンヨーシステム開発 代表
寺西歯科医院 院長

ロンドコンサルティング 代表

JBDA関東事務局長
アインダイビングスクール
/チームキャナビス 代表
有限会社アクアビット 代表
有限会社中国ダイビング 代表
有限会社マリンテック 代表
アクアスポーツプラザ 代表
沖縄県流通機構開発株式会社 代表

我孫子東邦病院 院長
JBDAイベント安全管理対策委員長
衆議院議員
儀部和歌子法律事務所
タレント
株式会社 拓商 代表
沖縄県障害者スポーツ指導員協議会 会長
沖縄県障害者スポーツ指導員協議会 事務局長
協立病院 スポーツ医師
独立行法人 国立病院機構 新潟病院 診療部長
西町クリニック 院長 (社) 那覇医師会副会長
東京都老人医療センター 歯科口腔外科医師
共和コンクリート工業株式会社 役員
名城大学 教授
沖縄リハビリテーション学院理学療法学科 講師
昇陽物産株式会社 社長
医療法人社団 順邦会 飯島整形外科 院長
財団法人社会スポーツセンター事務局長
財団法人産業教育振興中央会 事務局長
円山医院 院長
医療法人 博愛会病院 外科部長
国立行政法人 国立沖縄青少年交流の家 所長
茨城県立医療大学 助教授
株式会社ムラサキスポーツ役員、文化事業部部長
自民党参議院議員
筑波大学教授
にこにこ整形外科 院長
岡山大学教授

参与	屋高市佐久河比田外山西高濱山本高井	良尾川間野嘉端間崎古山本田橋上	文清真一秀裕博弘朝朝忠貴英	雄子徹一郎則充朋臣憲夫金明志明浩	沖縄ジャズ協会 副会長 ジャズピアニスト 障害者スポーツ指導員 中国電力株式会社 配電部 計画担当 副長 久茂地公民館 社会教育指導員 医療法人 河野整形外科医院 医院長 秀月 代表 舞台監督 沖縄県観光商工部情報産業振興課 主査 木原病院 医師 有限会社プランナー 本部長 沖縄県立浦添工業高校 教頭 元沖縄警察学校長 山田歯科医院 院長 セガミメディックス(株) 薬剤師 株式会社 宝建 代表 / 川口市市議 東京電力(株) 埼玉支店さいたま支社 課長
茨城県推進室長	山崎眞巳				(有) メディカルクリーンサービス 代表
中国地区推進室長	秋尾護				山口潜水(有) 代表
推進委員	西酒水野	村井谷口	慎正定	祐洋人康	有限会社 山手工業 理学療法士 名古屋市役所 有限会社 インターラーケン代表
エコツーリズム推進室長	松原孝雄				リンカーン学園 講師



11. 後援・共催・協賛・協力一覧

共 催

文部科学省所管財団法人 社会スポーツセンター

後 援

厚生労働省、沖縄県、宜野湾市、(財)日本障害者スポーツ協会、第十一管区海上保安本部、独立行政法人 国立沖縄青少年交流の家、社会福祉法人 沖縄県社会福祉協議会、社会福祉法人 沖縄県身体障害者福祉協会、社会福祉法人 浦添市社会福祉協議会、(財)日本海洋レジャー 安全・振興協会、(財)沖縄県観光コンベンションビューロー、サン・アビリティーズうらそえ、(財)ブルーシー・アンド・グリーンランド財団、(財)日本障害者リハビリテーション協会、沖縄県障害者スポーツ指導者連絡協議会、MFAジャパン株式会社、沖縄タイムス社、琉球新報社、日本経済新聞社、読売新聞西部本社、毎日新聞那覇支局、沖縄テレビ放送株式会社、琉球放送株式会社、琉球朝日放送株式会社、NHK沖縄放送局、沖縄ケーブルネットワーク、株式会社ラジオ沖縄、株式会社エフエム沖縄

協賛・協力

昇陽物産(株)

・Tシャツ



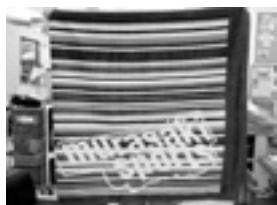
(株)タバタ

・バッグ
・三点セット
・Tシャツ



ムラサキスポーツ(株)

・バスタオル



ワールドダイブ(株)

・ウエットスーツ



JEFF=CMAS

・酸素供給キット



沖縄観光コンベンションビューロー

・横断幕
・沖縄観光手提げ袋

南西医療器(株)

・酸素タンク



西町クリニック

・医療資材

株式会社マスク

・バッグ



那覇医師会

・医療資材

(株)沖縄ポッカコーポレーション

- ・さんぴん茶



大塚製薬 (株)

- ・ポカリスエット
- ・MIU



(株)瑞泉酒造

- ・もろみ酢
- ・泡盛



(株)瑞穂酒造

- ・もろみ酢
- ・泡盛



南島酒販株式会社

- ・もろみ酢
- ・泡盛



浦添社会福祉協議会

- ・マイクロバス (ハッピーていだ号)
- ・リフトカー (チルグァー号)

社会福祉法人 若竹福祉開

- ・マイクロバス

カリー観光

- ・リフトカー (運転手付)

沖縄交通

- ・リフトカー (運転手付)

コムス

- ・電気自動車 (2台)

那覇交通

- ・リフトバス

沖縄県社会福祉協議会

- ・車イス

おきなわ太陽の町

- ・トラック1台

琉球新報

- ・りゅうちゃんテント

那覇社会福祉協議会

- ・シャワーチェアー

国立沖縄青少年交流の家

- ・ウェットスーツ、ウェイト、ベルト

ナハマリンスポーツ

- ・テント、イス、テーブル

宜野湾マリーナ

- ・施設、テーブル、イス

ヘルパーステーション コミット

- ・リフトカー

沖縄県身体障害者福祉議会

- ・手話通訳

司会

- ・RBCアナウンサー
末吉りえ



琉球海運株式会社

- ・寄贈船運送 (東京→沖縄)



12. 広告協賛

☆広告協賛一覧（順不同）

昇陽物産株式会社
株式会社ムラサキスポーツ
共和コンクリート工業株式会社
Oakキャピタル株式会社
沖縄電力
オリオンビール株式会社
大塚製薬
J C I A・J E F F=C M A S
ワールドダイブ株式会社
全日本潜水連盟 J U D F
日本ウエットスーツ工業会事務局
株式会社ゼロ
株式会社クリニカルサポート
有限会社エム・オーテック
株式会社 山文
西町クリニック
河野整形外科医院
円山医院
にこにこ整形外科医院
松川内科小児科医院

寺西歯科医院
ながた歯科医院
やえす歯科医院
医療法人尚歯会 一日橋むらた歯科医院
町の歯いしゃさん
株式会社 ターボ沖縄
もろみ酢.c o m
首里城下食事処 秀月
JAZZ LIVE in 寓話
全日空ホテルズ ラグナガーデンホテル
ラ・ティエダ西表
ビジネスホテル マリンウエスト那覇
沖縄自然薬草センター
沖縄スイミングスクール
親不知マリンサービス
(有)中国ダイビング
名古屋ダイビングセンター
アインダイビングスクール
/チームキャナビスダイビングサービス
マリンハウスおきなわ

☆遠方から応援いただいた皆様

神奈川県横浜市 斉藤 毅様 / 群馬県伊勢崎市 提橋 力一様 / 東京都 武藤 潤様
東京都 サロンド・オオモリ 大森様 / 新潟県 伊藤 博明様 /
協立病院 スポーツ医師 古野 雅彦様 / 共和コンクリート様
沖縄県那覇市 外間三味線店 外間 善盛様 / 沖縄県那覇市 沖縄県庁 外間 裕明様
沖縄ナショナル特機株式会社顧問 国吉 昇様（那覇東ロータリークラブ会員）

☆医療を支えてくださった皆様

国立療養所箱根病院	医師	伊 藤 博 明 様
		伊 藤 和 子 様
西町クリニック	医師	真栄田 篤 彦 様
沖縄リハビリテーション福祉学院講師		伊良波 知 子 様

皆様のご協力ありがとうございました。

13. 表彰の報告

○第10バリアフリー全国大会〔感謝状〕贈呈

バリアフリー全国大会において多年にわたり参加し、皆様に感動を与えて下さいましたゲストの方々と、同じく多年にわたり参加し、そのやさしさとボランティア精神で多くの参加者に喜びと楽しさを与えて下さいましたボランティアの方々に当協会より〔感謝状〕が贈呈されました。

＜ゲスト＞ ●山崎 禮子様 ●勝賀瀬 正様 ●外間 朝樹様

＜ボランティア＞ ●高尾 清子様 ●小塚 真理雄様

○大会長表彰〔特別功労〕受賞

※第50回 沖縄県社会福祉大会（平成19年10月23日）において当協会が大会長表彰〔特別功労〕で表彰されました。

★大会長表彰〔特別功労〕

（ボランティア及びボランティアグループ） 7人、8団体

・日本バリアフリーダイビング協会【代表者 山田 眞佐喜】

多年にわたり身体障害者及び高齢者などのハンディキャップ所有者のダイビングの振興に尽力し、障害者福祉の向上に貢献する。（那覇市福祉協議会推薦）

○大会長表彰〔特別功労者 団体〕受賞

※第31回 那覇市社会福祉大会（平成19年10月5日）において当協会が大会長表彰〔特別功労者 団体〕で表彰されました。

★大会長表彰〔特別功労者 団体〕4団体

・日本バリアフリーダイビング協会【代表者 山田 眞佐喜】

平成9年の設立より、日本全国に在住する身体障害者及び高齢者を含むハンディキャップ所有者のダイビングの振興を図り、リハビリテーション・健康の維持向上・ノーマライゼーションの増進を目的に、体験ダイビングや指導員研修会等を行っている。障がい者と健常者がレジャースポーツや沖縄の文化を通じて触れ合うことにより、心のバリアを取り除くとともに、心身のリハビリテーション及びノーマライゼーションの普及に大きく貢献した。（社会福祉法人 那覇市社会福祉協議会推薦）



●第50回 沖縄県社会福祉大会
大会長表彰〔特別功労〕受賞



●第31回 那覇市社会福祉大会
大会長表彰〔特別功労者 団体〕受賞

14. 2007年度地区大会報告

○第3回バリアフリーダイビング中国大会

■開催日：平成19年8月4日(土)、5日(日)、6日(月)

■開催地：山口県 萩市

■主催：日本バリアフリーダイビング協会
バリアフリーダイビング中国大会実行委員会

○第8回バリアフリーダイビング関東大会 in 伊東

■開催日：平成19年10月7日(日)、8日(月)

■開催地：静岡県 伊東市

■主催：日本バリアフリーダイビング協会
バリアフリーダイビング関東大会実行委員会

○第6回宮古島バリアフリーダイビング大会

■開催日：平成19年10月21日(日)

■開催地：沖縄県 宮古島市

■主催：宮古島市社会福祉協議会
宮古島市マリリゾート協同組合

15. 次回大会課題

- ☆ 次回大会への早期プランニング（ホテル等）と告知及び連絡
- ☆ J B D A指導員への教育の徹底
- ☆ サポートダイバーの育成と指導
- ☆ 安全対策の充実
- ☆ 事務における手続きの充実
- ☆ 大会スケジュールの見直し

☆ 告 知 ☆

第11回バリアフリーダイビング全国大会

日程	2008年6月下旬を予定しております		
場所	沖縄県内		
参加募集人数	ゲスト参加	30名	(予定)
	ボランティア参加	70名	(予定)
募集要項発送予定	2008年3月中旬予定		
募集締め切り予定	ゲスト参加者	2008年4月中旬予定	
	ボランティア	2008年5月中旬予定	

皆様のご参加をお待ちしております!!

第10回大会のビデオ、DVD販売をしております

ビデオ	1本	¥3,500
DVD	1枚	¥4,000

16. スナップ写真

到着/開会式



メディカルチェック



1日目 体験



1日目 ファン



2日目 ファン



閉会式/交流会



閉会式/交流会



参加者/チーム別



A-TEAM



B-TEAM



C-TEAM



D-TEAM



E-TEAM



F-TEAM



G-TEAM



H-TEAM



I-TEAM



J-TEAM



龍谷大学-TEAM



事務局-TEAM



財団法人日本障害者スポーツ協会登録団体

JAPAN BARRIER FREE DIVING ASSOCIATION

日本バリアフリーダイビング協会

事務局

〒900-0033 沖縄県那覇市久米1-5-18 稲福ビル1F

TEL: 098-869-4957 / FAX: 098-867-4034

ホームページ

<http://www.e-jbda.com/>

Eメールアドレス

info@e-jbda.com